

# 清水ヶ丘便り

## 学友会コーナー 生徒活動紹介のコーナーです

### 新学友会長あいさつ

巻頭前会長のあとを受け、このたび学友会長になりました、2年2部小野峻です。ここでは僕の思う今の清陵とやりたいことを書きたいと思います。

僕の任期である8月までに、新入生歓迎会、入学式、クラスマッチなど様々な行事があります。僕が入学した年は、地方会の解散が騒がれた年であり僕達の学年は地方会を経験していない初めての学年ということになります。地方会は問題が多かったことも事実だと思いますが、地方会の解散とともに地方会が持っていた、清陵の伝統の継承と、校歌指導というような役割も同時に失われてしまったと思います。実際清陵には校歌を歌うことができない生徒が増えてきていると感じ、本来学友会が引き継ぐべきであったこのような活動があまり行われていないのは、問題であると考えます。そこで僕は新入生歓迎会などを利用して適切な校歌指導などを行いたいと考えています。僕の経験から清陵に入学してくる生徒にとって、校歌を歌うということは本来誇りを感じるべきものであり、新入生には学友会の活動によりそのように感じてほしいと思っています。

また今の体制では、外部の人に清陵のことを知ってもらう機会が不足していると思います。先に上げたとおり僕の任期中だけでも様々な行事があり、特に受験を検討している中学生などには学友会で行っている活動に興味を持ってもらいたいと思います。そこで僕は学友会のウェブページを作り適宜情報を発信出来ていたらと思っています。

勿論、初めての経験ですので、不安な気持ちが正直ありますが、歴代の会長の活躍を模範とし、さらに発展させながら、半年間の任期を精一杯頑張りたいと思っています。

至らない点も多いかと思いますが、皆さんのご協力により、一層良い学校にしていきたいと思っています。よろしくお祈りします。

### 大会結果

#### クイズ研究会

第9回全国高校生金融経済クイズ選手権  
「エコミクス甲子園」長野大会優勝  
全国大会 総合8位入賞 由井恭輔、小野峻

#### 生物部

鳥フォトコンテスト2014グランプリ(環境大臣賞)受賞 河西宏樹

#### 吹奏楽部

第40回長野県アンサンブルコンテスト高等学校部門県大会  
打楽器4重奏(中山・岩波・藤森・三沢) 銀賞  
サクソフォン4重奏(佐藤・賀田・清水・宮下) 銀賞  
金管8重奏(塩原・溝口・今井・高木・浅井・小泉・津金・濱) 銀賞

#### 陸上部

長野県高等学校総合体育大会駅伝競走大会出場  
男子 渡邊高史・小池大勝・小池竜熙・吉田慎一郎・平出翔大・北村駿弥・山中智貴  
女子 笠原百華・寺島菜穂・後藤未来・中村日菜子・上原舞

#### 剣道部

全国高校選抜県予選  
男子団体 1回戦 諏訪清陵 2-1 長野高専  
2回戦 諏訪清陵 0-4 松代

#### 男子硬式テニス部

新人チーム対抗戦 諏訪清陵A 第6位

#### 男子バスケットボール部

長野県高等学校新人体育大会バスケットボール競技  
1回戦 諏訪清陵 46-74 市立長野

#### ハンドボール部

第38回全国高等学校ハンドボール選抜大会長野県予選大会  
1勝2敗(第3位)  
諏訪清陵 15-31 長野南  
諏訪清陵 18-34 屋代  
諏訪清陵 33-22 坂城

#### サッカー部

長野県高等学校新人体育大会  
1回戦 諏訪清陵 0-3 松本第一

### 卒業生(118回生) 238名 巣立つ

3月7日土曜日午前10時より、平成26年度第67回卒業証書授与式が挙行されました。保護者やご来賓の皆様、教職員、高校1・2年生と中学1年生の温かい拍手に迎えられ、男子147名・女子91名の卒業生が入場。学校長から卒業生代表に卒業証書が授与されると、3年間の思いが溢れ涙ぐむ姿が見られました。

卒業式の後は伝統の「談話会」が学友会主催で行われ、在校生からはお礼や激励の言葉が贈られました。卒業生は3年間の思い出を語り、清陵への熱い想いを後輩たちに託しました。

卒業証書や花束を抱えた卒業生たちは、仲間や先生と記念撮影をしたり語り合うなどして別れを惜しみ、思い出がいっぱいに詰まった学び舎を後にしました。



### 大学入試情報(3学年進路係より)

本年度卒業学年は、入学時からコツコツと努力を重ね、例年にも増して真面目な生徒の多い学年でした。真面目であれば大学へ合格できるというわけではありませんが、頑張っただけの結果が出てほしいと期待しています。卒業式前後に国公立前期の発表がありました。3月10日判明分までの合格延べ数は次のとおりです。

【国公立大学】北海道(2)、群馬(3)、千葉(3)、東京学芸(4)、横浜国立(2)、新潟(3)、山梨(2)、信州(19)、静岡(2)、名古屋(4)、名古屋工業(2)、首都大学東京(3)、山形・茨城・筑波・宇都宮・埼玉・お茶の水女子・東京・東京農工・金沢・大阪・奈良女子・広島・鹿屋体育・茨城県立医療・横浜市立・新潟県立看護・岐阜薬科(各1)計66名でした。最難関の東大や国公立の医歯薬学部にも合格しています。

【私立大学】青山学院(2)、北里(5)、上智(5)、中央(13)、東京電気(4)、東京理科(6)、法政(14)、明治(14)、立教(7)、早稲田(6)、同志社(5)、立命館(12)、他、計(延べ) 239名でした。

国公立大学の中・後期の発表は23日からです。前期に及ばなかった生徒も、最後まで粘れる受験計画で出願しており、引き続き頑張っています。最終結果は、4月にホームページでご覧下さい。

### これからの行事予定

4月	6日	新任式・始業式・入学式
	7日	対面式
5月	1日	クラスマッチ
	21~22日	一斉考查
	23日	授業公開
6月	9日	芸術鑑賞
	16~18日	第1回定期考查
7月	(3~5日)	清陵祭
	14~16日	学習合宿(1・2年)

### クラブ紹介 35 36

#### 書道部

私たち書道部の活動は「個人作品の制作」と「書道パフォーマンス」です。

書道パフォーマンスは、みなさんが書道に対して持っている「堅苦しい」イメージとは180度異なったもので、大筆を使い躍動感たっぷりに書き上げる「明るく楽しい」イメージの活動です。

もちろん、今までのイメージそのままに、古典作品を学び書くという活動を中心に行っており、私たちはそんなさまざまな面を持つ書道の深さや楽しさに触れながら、より一層の技術の向上にむけて日々努力をしています。



諏訪清陵高校書道部部長 小川 果歩

#### 山岳部

山岳部は、現在1年生3人、2年生5人の総勢8人で活動しています。あまり知られていませんが、登山にも大会があり、競技として野営技術や登山の知識が審査されます。昨年は2回参加し、昨年の南信大会では優勝することが出来ました。登山技術の向上につながることもあり、このような大会には積極的に参加していきたいと思っています。また、登山をするために大切な仲間との絆を大事にしています。



諏訪清陵高校山岳部部長 小野 峻





## スーパーサイエンスハイスクール (SSH)

文部科学省の指定を受け、科学技術振興機構 (JST) の支援を受けて平成14年度から13年間にわたり科学技術系人材の育成のために、独自のカリキュラムによる授業 (スーパーサイエンス・科学英語入門・SSH情報等) や、大学・研究機関などとの連携、海外科学セミナー (アラスカ大学フェアバンクズ校)、地域の特色を生かした課題研究など様々な取組みを積極的に行ってきました。

### 地域の皆さんや保護者の皆さんへ向けた取組みを実施!

#### 「清陵サイエンスフォーラム 21」

清陵サイエンスフォーラム21では、各界で業績をあげられておられる方をお招きして「講演会」と「講師を囲む会」を地域の皆さんにも公開して実施しています。

フォーラムは今年度で45回を重ねています。今年度第44回は京都大学iPS細胞研究所副所長・京都大学教授中畑龍俊先生による「iPS細胞が切り開く今後の医療」を、そして第45回は名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所拠点長・名古屋大学教授伊丹健一郎先生による「分子のチカラ、分子をつくる~究極のモノ作りで世界を変える~」の演題で実施しました (右写真)。講演後のアンケートによれば、「普段このような話に全く縁のない主婦です。先生のお話はとてもわかりやすく興味を持ちました。今まで新聞で記事が載っていても大文字だけチラリ見るだけでしたが、これを機会に中身も読んでみようと思いました。」という感想を頂きました。



### 地域の児童生徒の皆さんへ「わくわくサイエンス教室」など

#### 諏訪市児童センターの協力を得て実施

諏訪清陵SSH事業では、地域の児童生徒に向けて「科学教室」、「わくわくサイエンス教室」等の企画を本校独自のみならず、地域の公共機関のご協力を得て年間を通して実施して、クラブ活動や課題探究の成果を地域に発信しています。今年、諏訪市児童センター、諏訪市博物館、工学院大学 (諏訪市教育委員会)、岡谷市商工会等の行事に参加させていただいて「科学教室」を催しました。その他にも、近隣の高校生と清陵生と一緒に実習する講座も開講しています。

その一つとして、11月9日に催された諏訪市児童センター「センターまつり2014」では、科学系クラブの生徒が参加して「科学教室」と「顕微鏡の世界」を児童生徒向けに実施しました (左写真)。



透明標本に見入る少年たちと丁寧に説明する生物部員

### 地域の皆さんのご協力を頂いて先端技術産業等研修を実施

1学年「SSH情報」では10月16日 (木) に諏訪圏工業メッセ見学、そして11月6日 (木) には諏訪圏に立地する13社の企業のご協力を得て、先端技術産業等研修を行いました。

当日は事前に訪問企業の事業内容を下調べしてから訪問をさせて頂いています。「百聞は一見にしかず」、実際に現場でいろいろなことを見聞きし、また多くのことを体験して、学習を深めることが出来ました。

諏訪市のLCVでは、調整室で番組を制作している現場を見学したり、取材用のビデオカメラなどの機材を使っでの取材体験、スタジオに入ってニュースキャスターの体験の他、移動放送車などの見学もさせていただくことができました (右写真)。

そのほかの企業も積極的に関わっていただき、企業側からもキャリア教育において充実した行事との評価を頂いています。インターネットでの会社調べなど机上の事前学習からだけでは計り知ることのできない“実物”に触れることができました。

諏訪圏工業メッセの見学の成果と合わせて、地域の製造業等をテーマに課題研究を行い、最終的に研究成果を同級生と協働してポスターにまとめて、仲間の前で口頭発表しました。



## 卒業生の言葉

昨年度卒業生から清陵の思い出、大学の様子などを聞かせてもらいました。

### 進路



File no.1  
渡辺飛沙也  
埼玉大学  
教育学部

みなさんこんにちは。  
自分は今、埼玉大学の教育学部で教師を目指して頑張っています。内容の充実した講義を多く受け、とても有意義な大学生活を送っています。今回は清陵で最後の一年間と受験を迎える新三年生へ自分の経験談やアドバイスを伝えるので、少しでも参考にしてもらえたら幸いです。

自分が清陵生だった時は野球部だったので、他の人と比べ受験勉強を始めるのが遅く、当時は周りとの差に焦りを感じる日々でした。特に数学と政治経済については模試を受けても全くわからないという状況でした。しかしセンター試験までにはわからないところがない状況にし、本番では政治経済の偏差値が一番高いという結果になりました。(ちなみに一番得意な国語が最もできませんでした。笑)そして埼玉大学の前期試験で合格する結果になったわけですが、自分が感じたのは計画的に勉強するということの重要性です。これは何か月も先のセンター試験、その先にある前期試験に向けて計画的に勉強するという意味もあるし、一日をどのように過ごすかという意味もあります。自分の場合は毎日勉強する時間を決めていて、その中には夜中の12時~1時の休憩時間もあり、その時間は学校の準備をしたりテレビを見て、そのあとにまた勉強するという生活を送っていました。でもこれはあまりよくない例なので、朝に早く起きて勉強するようにしてください。このように計画的に日々を送っていると、だんだんと周りとの差も埋まってきて、そして自分は他の誰よりも勉強しているという自信が出てきました。この自信があったから最後まで諦めず頑張れたし、受験本番も落ち着いて受けることができたかなと思います。みなさんも人生で一度きりの大学受験なので、俺が一番勉強した!と思えるくらい頑張ってください。あと、これは自分の意見ですが、いくら二次試験で良い点を取れたとしても、センターで失敗したら何の意味もないので、二次試験の勉強もしながら、センターでしっかり結果を残せるように頑張ってください。

受験はとても苦しいものですが、いつも周りには競える仲間がいることや、家族などの支えてくれる存在がいることを忘れず、最後までやりきってください!!!みなさんの努力の先に明るい大学生活が待っていることを祈っています。ファイト!!!!



File no.2  
市川紗貴  
信州大学  
農学部 応用生命科学科

皆さんこんにちは。早いもので私が清陵を卒業してから1年が経とうとしています。この1年は洗濯機の使い方もわからないままに一人暮らしを始めた、北海道から沖縄まで全国から集まったいろんな人に会ったり、私にとっては本当に刺激的な毎日でした。大学の講義では建築や文学の講義を取ったり、短期授業でウインドサーフィンやパラグライダーに挑戦するなど、自分の専門科目に限らずいろんなことに取り組んでいます。ほんの1年前とは想像もできないくらいに生活が一変しましたが、とても楽しく大学生活を送っています。

1年前、私は清陵に遠くから飯田線に揺られて通っていました。部活帰りの電車で必死に日々の演習や予習をしたのはいい思い出です。清陵での3年間を思い出せば書ききれない思い出が溢れてきます。たくさんの友人や先生方に支えられて、清陵で高校生活を送ることができて幸いだったと感じています。さて、突然ですが私は高校時代、文系科目が得意でした。しかし、私はどうしても遺伝子の勉強がしたかったのです。だから理系に進みました。結果、何度も後悔しました。文転も考えたほどです。それでも同じ理系の友人に助けをもらいながら、苦々な科目も少しずつ頑張りました。そして今、私は遺伝子の勉強をしています。あの時、理系を選んでおいて本当によかったです。苦労は多くても好きなことを選ぶということの大切さを知りました。

最後に、私は志望校に進学することができませんでした。しかし、清陵のある先生に「大学院でもっと上を目指せばいい」というお話をしていたので、信大に進むことを決めました。私の所属する学科は多くが大学院に進学するというので、今は先生のお話も選択肢の一つと考えています。実際に進学してみると、大学生活は思っていたよりも厳しくて、楽しくて、たくさんのことが得られるものでした。もし、自分が進んだ道が理想の道ではなかったとしても、楽しいことや気づかなかったことに気付かされるのがたくさんあるものです。それもこれも清陵での3年間が今のベースにあるからだと感じます。清陵の生活はただの思い出になるだけではなく、それから先の自分にとっても、大きな糧となります。ぜひ清陵での3年間にいろんなことを体験して、すてきな高校生活にしてください。

## 2学年進路係より

新教育課程の導入とともに、進路の会議で「3年ゼロ学期」という言葉がよく使われるようになりました。今年度入試から現3年生の理科・数学は先行実施となり、入試の中身も変更点がたくさんありました。最大の変更は理科の改編で、特に理系はセンター試験までに仕上げなくてはならない分量がかなり増えています。ゼロ学期は、理科・社会を中心に少しでも受験勉強のスタートを早め、センター試験に間に合わせようというものです。

現在、2学年の生徒たちはこの「ゼロ学期」の真っ只中にあります。2年次はよく中だるみの年と言われます。本校も例外ではなく、たつぷりと高校生活をエンジョイしている生徒が多いのですが、最近、明らかに生徒たちの目の色が変わってきたのを感じます。

この1年を振り返ると、今年度は新しい試みとして北志賀竜王高原で学年全体の学習合宿を行いました。自分の限界に挑戦するを合い言葉に、夜中の1時過ぎまで頑張って勉強する姿には頼もしささえ感じました。おそらく、1日10時間を超える濃密な学習ができたのではないかと思います。夏休みは大学見学で、多くの生徒が実際に大学

のキャンパスに足を運んできました。この大学で学びたいという気持ちを新たにした生徒も多かったと思います。

10月の講演会では、本校OBでジャーナリストの小林和男さんのお話で生き方を考え、駿台予備学校の板垣さんからは実践的な受験のお話を伺いました。

数学・英語では日々の演習のプリントをほぼ毎日配布し、秋からは国数英の補習も行っています。一生懸命取り組んでくれている諸君は着実に力を付けてくれていると思いますが、学年全体に波及しているとは言えず、まだまだその気になれないでいる生徒が多いのは残念です。

冒頭で触れたように、もう3年ゼロ学期です。特にこの春休みにペースを上げて行って、4月からはロケットスタートで一気に上昇し、その勢いを最後の最後まで持ち続けて欲しいと思います。余力は十分にあります。

一人一人が希望の進路を実現できるように祈りつつ、係としてもできる限りのサポートをしていこうと思っています。